

(4) 要録について

指導要録や保育要録は、幼児一人ひとりの成長の様子や指導経過を継続的に記載するものであり、その幼児の指導を引き継いでいくためのものです。特に、小学校に就学する段階においては、小学校へ引き継ぎたいことや、入学後に育ててほしいことなどを視野に入れ、幼児の育ってきた過程を踏まえ、全体像を捉えて総合的かつ簡潔にわかりやすく書く必要があります。

記入にあたっては、幼児の最善の利益を第一に考え、個人情報の保護に留意し適切に取り扱うようにしてください。

要録を記入する際の留意点

○幼児の育ちをつなぐために

- ・小学校での指導の参考にできるように、指導上必要な保育者との関わりや具体的な成長の姿等を記入する。
- ・配慮を要することで、引き続いて小学校でも配慮してほしい場合は、保護者の思いを受け、確認して記載する。

○より良い指導につなげるために

- ・肯定的な視点でとらえる。
温かい関わりで育まれる信頼関係の中で、幼児が安心して過ごすことができるように、その子の姿や様子、伸びてきたところを肯定的な視点で記入する。
- ・日々の保育、評価からより良い指導へつなげる。
要録の記入を通して、自身の指導や保育を振り返り、次年度へつなげる資料とする。
- ・各領域のねらいや「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点として、発達の実態から向上が著しい成長の姿を記入する。
- ・他の幼児との比較や一定の基準に対する達成度についての評定によるものではなく、本人の成長の変化を記入する。
- ・具体的な事柄をあげながら、良い面や頑張っている姿を記入する。

例 「自分から考えて工夫する姿が見られた」
「〇〇することを楽しんでいる様子がある」
「〇〇ができるようになってきた」
「友だちに対して、〇〇の様子が見られ、思いやりの気持ちが表れていた」